

新聞益會 第十

新聞と云へば泥坊情死

密夫の風聴或は犬さへ喰

ハ奴夫婦喧嘩蕩樂息子

小親不孝おど暗かりの

耻を明るこ出いての異見も

能けれど年々の行ぬ者共は却て

世間の常と思ひまを流行致さんらと

今度の本まの勧善の助けと成べきを爰出出す

大阪第三大区十二小區裏新町一丁目佐藤又七ある者二人の男子

常三郎芳三郎十二年と九年あるを早くらり學校ふ入れ日々

勤學怠らせず二子も勝れて出精せしるハ八年七月九日方今の

御趣意厚相心得子身びりて日々無懈上校勉學爲致候段奇特の

事とあつて御褒詞を蒙りて是兩親の平常心得方宜く子を

育つるの道を知るが故ありと多くて常三郎の常非ざる美志と芳三郎の

芳かき名を世間の悪さ斗はる子供や今の世を誹る頑陋親翁ハ示

さんと筆を執る者ハ堀江川の邊り小住む

舟水の翁ハ人

八長喜

新刊

